

学習院女子大学主催シンポジウム「<やさしい日本語>と多文化共生」 ブース発表「やさしい日本語」の活用に向けて～横浜市と横浜市国際交流協会の取組～

講演者：横浜市国際交流協会多文化共生推進課 由田 弘美 氏

横浜市国際交流協会(YOKE)が横浜市と共に行なっている「やさしい日本語」関連の主な取組は、以下の通り。 1.「やさしい日本語」ワーキンググループへの参加 2.行政向け「やさしい日本語」研修会への講師派遣 3.外国人向け情報誌「よこはまyokohama」の「やさしい日本語」版発信 4.一般向け「やさしい日本語」研修会 5.パンフレットやバッチの作成と配布



ワーキンググループは毎回3名程度の外国人が参加し、横浜市民政局や各担当部署の職員、外国人、有識者が一堂に会し、横浜市が推進している「やさしい日本語」への公文書書き換えについて取組むもので、これまでに16回実施した。メール等のやり取りだけでは判断・返答できない事柄も、その場で質問やディスカッションできたこと、また市職員も外国人がどう感じているか、ニュアンスの違い(例えばフィリピン人にとっては子どもを「預かる」と言うと連れ去りと同義に感じられる等)を知るなど、有益な取組となった。文化の差異が多くあるので、単純な用語の書き換え以前に、その点のすり合わせを行った。

行政職員向け「やさしい日本語」研修会では、1グループ5～6人の職員の中に外国人1人が入って、書き換えワークを行った。

情報誌「よこはまyokohama」については、行政からのお知らせ、市民参加イベント、国際交流ラウンジでのイベントなどの情報を、「やさしい日本語」に書き換えてブログで公開している。2001年の創刊から17年目。

一般向け「やさしい日本語」研修会は、過去に2回実施。初年度は「やさしい日本語」を知ろう」「書こう」「話そう」という3つのテーマで、日頃外国人と接する人を対象に開催した。次年度は、「やさしい日本語」を利用している民間企業から講師を招聘し、前年の研修に参加した人が実際に現場で「やさしい日本語」を使用して感じた課題などを、フォローアップする研修を行った。

また「やさしい日本語」対応をしている事を表すバッジを作成して、交流協会職員が着用したり、パンフレットなどでの周知活動も行っている。なお、YOKEのFacebookでも外国人向け情報に「やさしい日本語」を活用している。これまでに一番反響があったのは、マイナンバー配布についての記事で、シェアする際に母語を併記してくれる外国人もいた。



今後の活動としては、「多言語標準訳語集」という行政用語の翻訳データベースへの「やさしい日本語」の追加を計画している。外国出身の翻訳者によれば、難解な行政用語でも「やさしい日本語」への置き換えのために解説を加える作業を通して、翻訳者自身の理解の助けになると期待されている。

横浜市国際交流協会 <https://www.yokeweb.com/> <https://www.facebook.com/2012yoke/>
よこはまyokohama <https://www.yokeweb.com/yokoyoko>
多言語標準訳語集(横浜) http://www.yoke.or.jp/dbf_new/

(平成29年度作成)

問い合わせ先

「<やさしい日本語>と多文化共生」シンポジウム事務局
yasanichi.symposium@gmail.com